

第24回外務省政策会議 (概要記録)

日時：3月17日 午前8：00～8：50

場所：衆議院議員第2会館 第4会議室

出席議員の概数：20名程度

議題：

- (1) 2010年日本APECについて
- (2) 平成22年版外交青書について
- (3) 吉良政務官の出張報告(チリ及びペルー訪問)
- (4) その他

外務省からの説明

1. 2010年日本APECについて【武正副大臣・事務方】

(武正副大臣より) 2010年日本APECについては、既に第一回高級実務者会合を2月22、23日に広島で開催しており、また昨年12月にもAPECシンポジウムを開催するなど、日本がAPEC議長として実際に作業をスタートしている。来年は米国が議長を務めることを踏まえ、アジア太平洋の経済連携を強めることも目指す。2010年APECは、地域経済統合、成長戦略の策定、人間の安全保障という議論の柱で取組を進めていく予定。(その後事務方より、配布資料に基づき説明。)

2. 平成22年版外交青書について【事務方】

事務方より概要を説明。

3. 吉良政務官の出張報告(ペルー及びチリ訪問)【吉良政務官】

配布資料に沿って、ペルー及びチリ訪問につき報告。

質疑応答

1. 2010年日本APECについて

(質問・コメント)

- ・ (神奈川県選出議員として) 横浜APECについて、総力をあげて応援していきたいという気持ちがあるが、適時に情報が伝わってこない。地域の議員も巻き込んで準備を進めていくことを考えると、体制を整えねばならず、時間があまりない。早期の情報提供をお願いしたい。
- ・ APECエコノミーの議連の立ち上げを含め、議員側としても他国と協議を

行う体制を早急に立て直すよう、検討をお願いしたい。

- ・ 2010年日本APEC各種会合の開催地の決定基準はどのように行われたのか。関東、関西のバランスをもう少しとってよかったのではないか。

2. 平成22年版外交青書について

(質問・コメント)

- ・ 先般公表された密約については、前政権までは否定し続けており、密約の存在が明らかとなった今、国民に対して嘘をついていたということを外交青書で大きな字で記すべき。
- ・ 領土問題に関し、北方四島について政府として解決に向け努力する旨記載があるが、竹島については記載がない。政府が竹島問題に正面から向き合っている姿勢を外交青書で記載すべき。
- ・ E P A交渉については、農林業をはじめ一次産業に大きなダメージを与える可能性があるため、国際的な流れに任せるのではなく、様々な意見を聞いてもっと慎重に議論をするべき。
- ・ 昨年9月の政権交代を受けて、外交においても政策転換が図られているものもあるはずである。外交青書で政権交代後の外交についてメリハリのある書き方を工夫すべき。
- ・ 調査捕鯨の妨害を行うシーシェパードやマグロの問題について外交青書で触れているのか。
- ・ 国民に分かりやすい外交青書ということだが、たとえば国際社会における「法の支配」などは、一般人にとってはわかりにくいいため、具体例を挙げるなどより分かりやすい記載とするべき。

3. 外務省政策会議の在り方

(質問・コメント)

- ・ 政策会議のやり方について、本日もそうだが、外務省からの説明がほとんどで、議論する時間がない。前もって資料をEメールで関係者に配布し、政策会議では建設的な議論の場とすることが望ましいので検討してほしい。

時間的制約のため、質問への回答は事後個別に行われた。

(了)